

マップアップリンク

「マップアップリンク」とは、地図を使って地理空間情報を「見える化」するための考え方です。業務で使用される GIS やデータベースには種々の地理空間情報が収められていますが、それらは当該 GIS やデータベースでのみ使用できただけで、他のシステムの地理空間情報と容易に重ね合わせて利用することは困難なことが多かったのです。

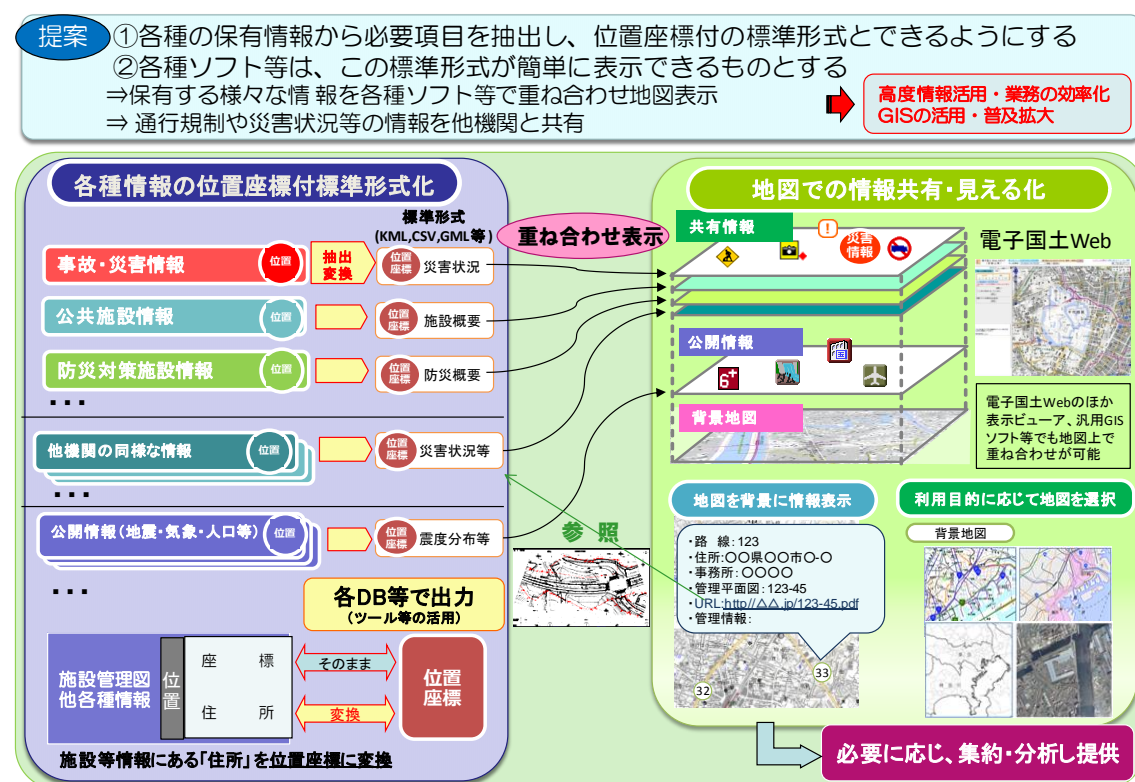
マップアップリンクの考え方は、今後 GIS を整備するにあたって、①各種の保有情報から必要項目を抽出し、位置座標付の標準形式とできるようにすること、②各種ソフト等は、この標準形式が簡単に表示できるものとする、の提案です。

国土地理院では、その標準形式を地図上で表示できるビューワのひとつとして電子国土 Web を提供します。

様々な部署が保有する地理空間情報を地図の上で重ね合わせて表示することにより、例えば、通行規制や災害状況等の情報を他機関と共有ができるようになるなど、地理空間情報の高度な活用や各業務の効率化につながっていくと考えられます。

国土地理院では、この取り組みの推進のための代表的な標準形式の一つとして、KML 及び位置座標つき CSV 等を採用します。

※ KML とは、地理空間情報を Web ブラウザー等で表示するための標準的なデータ形式。地理空間情報に関する標準化団体（OGC）によって規格化されている。



マップアップリンク（地図を使った情報の見える化のための仕組み）の概念